

# 近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2022年） 1 / 5

※速報値のため、変更等があり得ます。

## ①ガス事故報告件数 事業別（過去10年間）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
一般ガス導管 事業関連	231	130	155	139	111	103	143	107	119	127
旧簡易ガス 事業関連	5	4	5	3	1	4	3	2	2	1
合計	236	134	160	142	112	107	146	109	121	128

2022年に発生した近畿管内におけるガス関係報告規則第4条第1項に該当する 詳報対象事故の発生件数は、128件（前年より7件増加）となった。

## ②ガス事故報告件数 段階別（過去3年間）

	2020年	2021年	2022年
製造段階	0	1(1)	0
供給段階	82(2)	90(1)	101(1)
死傷事故件数	1	1	0
消費段階	27	30	27
死傷事故件数	1	0	1
合計事故件数	109(2)	121(1)	128(1)

・2022年の段階別発生状況は、「供給段階」で101件の事故が発生しており、前年より11件の増加となった。また、「消費段階」での事故は27件発生しており、前年より3件減少した。

・死傷事故は「消費段階」で1件発生。着火・爆発により2名が死亡する重大事故が発生している。

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字

# 近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2022年） 2 / 5

※速報値のため、変更等があり得ます。

## ③供給段階における現象別件数（過去3年間）

	2020年	2021年	2022年
供給支障	5	11(1)	10(1)
着火・爆発・中毒等	3	7	2
避難・交通困難	74(2)	72	90
合計事故件数	82(2)	90(1)	101(1)

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字

※現象については重複があるため、合計とは一致しない

- ・「避難・交通困難」を伴う事故が90件発生しており、例年より多い。
- ・「供給支障」の10件の内訳は、サンドブラストが4件、差し水が2件、他工事が2件、導管工事が2件。導管工事の2件は、いずれも工事会社作業員の作業手順等の不遵守・連携不足により発生している。

## ④供給段階における要因別件数（過去3年間）

	2020年	2021年	2022年
他工事	47(2)	35(1)	38(1)
導管工事	1	3	2
自然劣化	15	31	27
継手部緩み			8
物理的外力	1	1	2
その他	18	20	24
合計事故件数	82(2)	90(1)	101(1)

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字

- ・「他工事」による事故が38件で、ここ数年の傾向と同様に最も多くなっている。
- ・「自然劣化」による事故が27件、「継手部緩み」による事故が8件、合計35件発生しており、例年より増加した。

### （参考）管種別の自然劣化による事故（過去3年間）

	2020年	2021年	2022年	合計
ねずみ鋳鉄管	0	0	0	0
アスファルトジュート巻き鋼管	6	17	11	34
亜鉛メッキ鋼管	4	1	6	11
ポリエチレン被覆鋼管	2	8	6	16
その他	2	5	3	10
不明	1	0	1	2
合計	15	31	27	73

# 近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2022年） 3 / 5

※速報値のため、変更等があり得ます。

## ⑤現象別他工事による事故 （過去3年間）

	2020年	2021年	2022年
供給支障	1	2(1)	2
中毒・酸欠	0	0	0
着火・爆発	2	3	1
避難・交通困難	44(2)	30	36
他工事事故の合計	47(2)	35(1)	38(1)
事前照会あり	11	11	13(1)
事前照会なし	34	23	25

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字

※現象については重複があるため、合計とは一致しない

- ・他工事事故のうち、25件（全体の約2/3）は事前照会が無かったものである。
- ・また、事前照会があったにもかかわらず事故に至ったものは13件あり、要因としては、事前照会時と異なった作業を連絡せずに実施したものや、他工事業者内で現場作業員への連絡不備等となっている。

## ⑥工事業者別の他工事による事故 （過去3年間）

	2020年	2021年	2022年	合計
解体工事業者	18	9	10	37
建築工事業者	2	7	12	21
水道工事業者	4(1)	1	5(1)	10(2)
下水道工事業者	1	6	1	8
道路工事業者	2	3	2	7
外構工事業者	5(1)	1	1	7(1)
改装工事業者	4	1	1	6
電気工事業者	2	0	1	3
基礎工事業者	2	0	0	2
設備工事業者	2	0	0	2
電柱工事業者	0	2(1)	0	2(1)
土質調査業者	0	1	0	1
その他	5	4	5	14
合計	47(2)	35(1)	38(1)	120(4)

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字

- ・他工事事故は、解体工事業者、建築工事業者、水道・下水道事業者の順で多く発生している。

# 近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2022年） 4 / 5

※速報値のため、変更等があり得ます。

## ⑦消費段階における要因別件数（過去3年間）

		2020年	2021年	2022年	合計
消費者の理解不足や誤使用等に起因する事故		12	21	16	49
維持管理不備		6	15	6	27
	経年劣化	4	4	3	11
	内部腐食	0	2	0	2
	汚れ等	0	8	3	11
	その他	2	1	0	3
ガス栓誤開放		1	1	4	6
接続不良・接続不完全		3	4	3	10
不適切使用(点火操作ミス・使用ミス)		2	1	3	6
CO中毒		1	0	0	1
その他		14	9	11	34
作業ミス		2	1	0	3
	養生シート覆い等、給排気閉塞	8	6	7	21
	リコール等	1	1	1	3
	その他	0	0	1	1
	不明(調査中を含む)	3	1	2	6

- ・消費機器事故は、年間30件前後で推移している。
- ・2020年に排ガス中毒により1名が、2022年に着火・爆発により2名が死亡する重大事故が発生している。

⑧消費段階の消費機器別件数（過去3年間）

※速報値のため、変更等があり得ます。

	2020年	2021年	2022年	合計
風呂釜	0	3	2	5
湯沸器	12	9	9	30
ガス栓	1	1	4	6
炊飯器	1(1)	0	0	1(1)
コンロ	2	3	1	6
クッキングテーブル	1	1	1	3
ファンヒーター	0	0	0	0
接続具	10(3)	12(3)	8(5)	30(11)
その他	0	1	2	3
合計	27(4)	30(3)	27(5)	84(12)

- ・（ ）は、産業用に用いられていたものであり、件数は内数。
- ・発生件数の多い消費機器は、湯沸器と接続具となっている。
- ・湯沸器の事故は、約7割が養生シート等による給排気閉塞によって発生しているが、そのうち約半数については、異常発生時期と事故覚知時期の乖離などにより、給排気閉塞した原因の特定には至っていない。
- ・接続具の事故のうち8件（約1/4）が、開放式瞬間湯沸器取付時の金属接続具の締め込み不足や既設接続具（劣化パッキン）の再使用により発生している。
- ・風呂釜の事故は、2件がリコール未対応により発生している。また、リコール未対応を含めた4件がガバナ部のゴム製ダイヤフラムの異常によるものとなっている。